

〔執筆者紹介〕（掲載順）

早川 和宏（はやかわかずひろ） 東洋大学教授・弁護士

豊見山和美（とみやま かずみ） 沖縄県公文書館アーキビスト

喜多村理子（きたむら りこ） 鳥取短期大学非常勤講師

柴田 智彰（しばた ともあき） 秋田県生涯学習センター

社会教育主事

伊藤 康（いとう やすし） 鳥取県立公文書館総括専門員

田中やよい（たなか やよい） 鳥根大学附属図書館（図書職員）

〔編集後記〕

四年ぶりに第九号を刊行する運びとなった。隔年ごとに刊行する計画であったので、一回分飛んだことになるが、継続できたことに、創刊号から関わってきた者としては一先ず安堵している。

さて、鳥取県では、平成二九年四月に「鳥取県における歴史資料として重要な公文書等の保存等に関する条例」を施行した。この条例は、県民の知る権利や地域の歴史を伝える「歴史公文書等」を県、市町村、県民等の三者が、適切に保存し活用することを謳った条例で、全国では初めての条例となった。

本号では、その施行に合わせて実施したシンポジウムでの講演と鼎談の記録、及び寄稿論文をまず収載した。早川氏の基調講演、早川・

豊見山・喜多村の三氏による鼎談は、アーカイブズや歴史研究の最前線で活躍される方々の優れた知見が随所に見られるものとなった。また、はるばる秋田県から駆けつけていただいた柴田氏の論考は、新条例の歴史的意義を再認識するのに役立つものとなった。

当館元職員である田中氏には、先の戦時下に発生した鳥取大地震の報道の在り方についての論考をお寄せいただいた。「新聞報道と雑誌にみる鳥取大震災」（『研究紀要』第八号）に続く論考であり、今後の研究活動に期待するところ大である。

あらためて、執筆等を賜った各位にお礼を申し上げると共に、読者諸賢のご高覧をお願いいたします。

（伊藤ヤ）

鳥取県立公文書館研究紀要 第九号

平成三〇（二〇一八）年三月二三日 発行

編集・発行 鳥取県立公文書館

〒六八〇一〇〇一七

鳥取市尚徳町一〇一

TEL〇八五七一一二六一八一一六〇

印刷 有限会社 蛍光社